

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 ・定時株主総会 3月31日
・期末配当 3月31日

公告方法 電子公告により行います。

(当社のホームページに掲載
<http://www.utoc.co.jp/>)

事故、その他やむを得ない事由によりホームページに掲載できない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-78-2031

取次事務は中央三井信託銀行株式会社の
全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の
本店および全国各支店で行っております。

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がない株主様は、当社が開設した特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

*「特別口座」とは株券電子化制度への移行に伴い、株券電子化前に株式会社証券保管振替機構(ほふり)に株券を預けられている株主様につきまして、株主名簿上の名義で当社により開設された口座となります。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受け取りの株主様につきましても、本年より配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

株主様のご住所・お名前に関する文字についてのご案内

株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前のご住所に、ほふりが振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナを使用して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。



ZOOM UP

おかげさまで創業120周年。 先達たちの誇りと情熱を「つなぎ、伝え、そして進化」

昨年のNHKドラマ・司馬 遼太郎の「坂の上の雲」で、正岡 子規が大日本帝国憲法の発布を喜んだ場面がありましたが、当社の歴史は、その翌年の1890年(明治23年)に、創業者である宇都宮 徳蔵翁が横浜の地で「宇都宮徳蔵回漕店」を興し、国内貨物のはしけ回漕を始めたことに発します。



創業者・宇都宮 徳蔵翁

創業の年には、第一回衆議院議員総選挙、第一回国議会開催、東京・横浜間に日本初となる電

その後、秋山好古・真之兄弟が活躍した日清・日露戦争を経て、わが国の貿易量は飛躍的に伸び、横浜港も大いに発展することになります。海上輸送の発展性にいち早く着目した徳蔵翁は、1906年(明治39年)には「横浜税関貨物取扱免許人」の資格を取得し、輸出入貨物全般を取り扱うことで、「港湾運送の宇徳」としての基盤を築きました。

また、近代産業の確立を推し進める当時において、当社は、工業発展の中心となる機械の運搬や、あらゆる工業の原動力となる電力供給源の発電所の建設、特に水力発電においてはその黎明期より積極的に参入し、大型発電用設備機器の港から現地までの運搬、据付工事等で、膨大な実績を残しています。その後、重化



1940年(昭和15年)頃、「満州宇徳」による変圧器の貨車積み作業風景

学工業の発展を背景に、新鋭大型化する工場機械設置の分野にも参入し、「重量品の宇徳」として国内外に社名を轟かせました。

一方、戦後の1951年(昭和26年)には、港湾運送事業法の施行を受けて、京浜港における「一般港湾運送事業(所謂、元請)」の第一号という名誉ある登録許可を取得し、GHQの軍貨指定業者として、また船社との関係強化の中で高度成長の時流に乗り、港湾運送事業を拡張してきました。



1968年の12月8日(当社「設立記念日」)、フルコンテナ船としては日本への第一船となる「サンファン号」が寄港。横浜・本牧埠頭の積み込み作業を当社が実施

『坂の上の雲』には、欧米諸国に追いつこうと近代化を推し進める「明治日本」と、その一部を担う気概をもって、それぞれの分野において目の前の雲(夢・目標)を目指し、近代化の坂を上り、突き進んでいった人々と明治という時代の精神がいまも描かれています。当社は、そのような時代に創業し、以来、先達たちは多くの優れた技術を培い、お客様のニーズと時代の要請に柔軟に適応し、誇りと情熱をもって会社を発展させてきました。

そのDNAは、港湾・物流・プラントの中核3事業のいまに脈々と受け継がれ、「つなぎ、伝え、そして進化」が続いています。



株式会社 宇徳

〒231-0007
神奈川県横浜市中区弁天通六丁目85番地
<http://www.utoc.co.jp/>
TEL: 045-201-6608(代表)
証券コード 9358



安心と信頼の総合物流ネットワーク Since1890



UTOC PRESS



6P TOPICS

宇徳と日本・世界の120年の歩み

7P NEWS

創業120周年。さらなる飛躍を目指して

「特定保税承認者」の承認を受ける
アステラス富山株式会社 富山工場で機器据付工事を実施
SHELL社大型エチレンプラントの心臓部を無事故で完工 ほか

第143期
株主通信

2009年4月1日~
2010年3月31日



株式会社 宇徳



株主の皆様へ



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第143期(2010年3月期)の業績をご報告するにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

その結果、当期第1四半期決算において下方修正しました、通期の連結業績予想の営業収入405億円、経常利益11億円、当期純利益7億円に対し、営業収入では4億7千9百万円(1.2%)減となりましたが、経常利益で2億6千7百万円(24.3%)増、当期純利益で2億8千5百万円(40.7%)増の改善となりました。

なお、配当につきましては、当期の業績および今後の事業展開を勘案し、1株当たり4円とさせていただきます。

当社は本年3月、創業120周年を迎えました。

「宇徳に任せたら安心」というお客様からの信用と信頼こそ、宇徳の原点、ブランド力であり、その歴史と伝統を「つなぎ、伝え、そして進化」させていくためには、事業環境の変化に適応できる人材の育成、技術の伝承と進化、サービスの継続的な改善による競争力の強化が不可欠と考えています。

引き続き厳しい事業環境下にあります。さらなる財務体質の改善と企業基盤の強化、コンプライアンスの徹底に取り組み、企業価値を高め、社会に貢献して、これからもお客様、そして社会から必要とされる企業であり続けることを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月

代表取締役社長 外園賢治

当連結会計年度における世界経済は、中国をはじめとする各国の景気刺激策の効果により一昨年来の低迷の最悪期を脱し、緩やかな回復軌道に乗りつつありますが、全般的に厳しい状況で推移しました。わが国経済は輸出の漸増等により企業業績に改善がみられましたが、設備投資や個人消費の低迷など自律的回復への不安を残しながら推移しました。

その結果、営業収入は4期連続で400億円を確保しましたが、前期比34億9千万円(同8.0%)減の400億2千1百万円、経常利益は12億1千2百万円(同47.0%)減の13億6千7百万円、当期純利益も7億4千2百万円(同43.0%)減の9億8千5百万円と、減収減益となりました。

港湾および物流事業の輸出入貨物の取扱量は、第2四半期以降、緩やかに回復しておりますが、2年前までの好調時に比して低水準で推移し、総じて厳しい状況でした。一方、プラント事業は、国内外において設備投資が減退する中、海外における大型プラント工事を中心に、前期を上回る業績を確保しました。

企業理念

1. 顧客のニーズと時代の要請に沿った高品質なサービスの提供を通じ社会に貢献し、企業価値の向上を目指します。
2. 社会規範と企業倫理に則った透明性の高い経営を行い、チャレンジ精神豊かな人間性を尊ぶ企業を目指します。
3. 全ての事業領域での安全確保の徹底と環境保全に努めます。

業績の推移(連結)

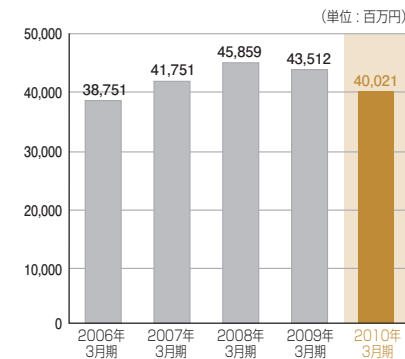
2009 Apr.-
2010 Mar.

UTOOC PRESS

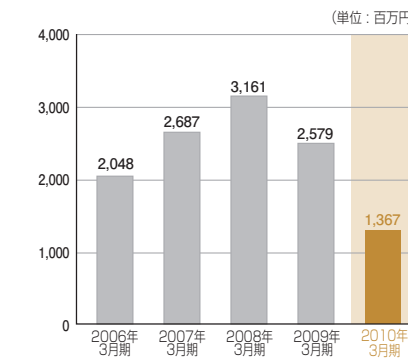
第143期ハイライト

営業収入	400億2,100万円	前期比	- 8.0%
経常利益	13億6,700万円	前期比	- 47.0%
当期純利益	9億8,500万円	前期比	- 43.0%
1株当たり当期純利益	34円10銭	前期比	- 43.0%

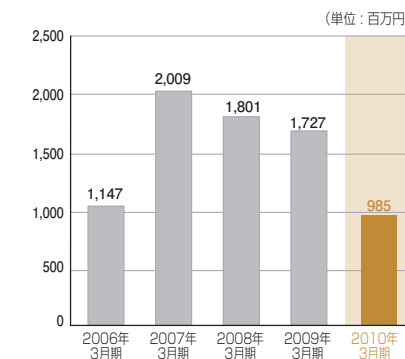
営業収入



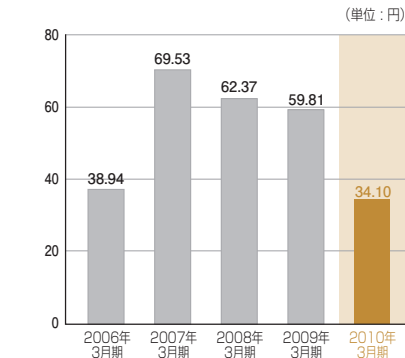
経常利益



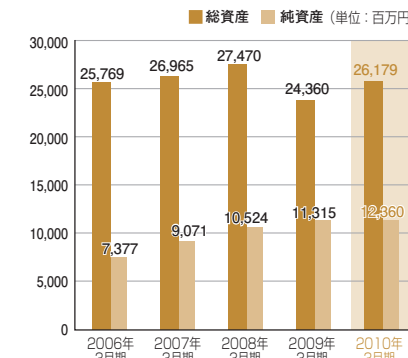
当期純利益



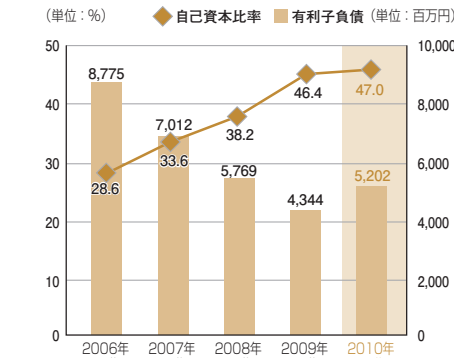
1株当たり当期純利益



総資産/純資産



自己資本比率/有利子負債



連結貸借対照表(要旨)

科目	期別	
	当期 2010年3月31日現在	前期 2009年3月31日現在
資産の部		
流動資産	12,745	10,985
現金及び預金	2,077	2,893
受取手形及び営業未収金	8,492	6,945
その他	2,198	1,164
貸倒引当金	△ 23	△ 18
固定資産	13,434	13,375
(有形固定資産)	(8,848)	(9,279)
建物及び構築物	5,271	5,469
機械装置及び運搬具	549	817
土地	2,605	2,605
その他	421	386
(無形固定資産)	(1,244)	(1,254)
(投資その他の資産)	(3,341)	(2,842)
投資有価証券	1,593	1,052
その他	1,771	1,819
貸倒引当金	△ 23	△ 29
資産合計	26,179	24,360

(単位:百万円)

科目	期別	
	当期 2010年3月31日現在	前期 2009年3月31日現在
負債の部		
流動負債	9,499	8,238
支払手形及び営業未払金	3,523	3,425
短期借入金	3,041	1,699
1年内返済予定の長期借入金	836	1,024
その他	2,098	2,089
固定負債	4,320	4,806
長期借入金	1,325	1,620
退職給付引当金	2,435	2,617
その他	560	568
負債合計	13,819	13,045
純資産の部		
株主資本	11,939	11,185
資本金	1,455	1,455
資本剰余金	330	330
利益剰余金	10,187	9,433
自己株式	△ 33	△ 33
評価・換算差額等	367	113
その他有価証券評価差額金	523	317
繰延ヘッジ損益	-	1
為替換算調整勘定	△ 156	△ 205
少数株主持分	52	15
純資産合計	12,360	11,315
負債及び純資産合計	26,179	24,360

連結損益計算書(要旨)

科目	期別	
	当期 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前期 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
営業収入	40,021	43,512
営業支出	33,333	35,055
営業総利益	6,688	8,456
業務費及び一般管理費	5,344	5,948
営業利益	1,343	2,507
営業外収益	129	177
営業外費用	105	105
経常利益	1,367	2,579
特別利益	204	65
特別損失	17	102
税金等調整前当期純利益	1,554	2,542
法人税、住民税及び事業税	469	848
法人税等調整額	64	△ 34
少数株主利益	35	-
当期純利益	985	1,727

(単位:百万円)

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	期別	
	当期 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前期 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,183	2,709
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 197	△ 856
財務活動によるキャッシュ・フロー	558	△ 1,646
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	△ 54
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△ 810	151
現金及び現金同等物の期首残高	2,888	2,736
現金及び現金同等物の期末残高	2,077	2,888

(単位:百万円)

連結株主資本等変動計算書(要旨)(2009年4月1日から2010年3月31日まで)

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	1,455	330	9,433	△ 33	11,185	317	1	△ 205	113	15	11,315
当期変動額											
剰余金の配当			△ 231		△ 231						△ 231
当期純利益			985		985						985
自己株式の取得			0	△ 0	△ 0						△ 0
自己株式の処分			0	0	0						0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						206	△ 1	49	253	36	290
当期変動額合計	-	0	753	△ 0	753	206	△ 1	49	253	36	1,044
当期末残高	1,455	330	10,187	△ 33	11,939	523	-	△ 156	367	52	12,360

(単位:百万円)



「特定保税承認者」の承認を受ける より一層安心してご利用いただけるサービスの向上を目指して

当社は本年3月19日、横浜税関長から特定保税承認制度における「特定保税承認者」の承認を受け、3月31日、承認通知書の交付を受けました。「特定保税承認者」としては、横浜税関管内で7社目、全国では73社目の承認となります。

特定保税承認制度は、セキュリティ管理とコンプライアンス体制が整備された事業者に対し、税関長が「特定保税承認者」として承認し、税関手続きにおける特例措置が適用されるものです。国際物流におけるセキュリティの強化と効率化を目的とした日本版 AEO (Authorized Economic Operator) 制度の一環として、2007年10月に導入されました。



承認通知書を手にする外園社長と横浜税関長

今回、「特定保税承認者」として承認されたことで、税関への届出により保税蔵置場等を設置することが可能（通常は個々に許可が必要）となるほか、保税蔵置場の許可手数料が免除されること、通常6年の保税蔵置場許可期限が8年に延長されること、包括的な許可（更新）を受けられること、コンプライアンスを反映した税関検査を受けられることなど、税関手続きの利便性が一層向上することになります。

今後も AEO 制度における「認定通関業者」の認定取得を目指すとともに、倉庫業務並びに輸出入関連業務におけるセキュリティの確保とコンプライアンスへの取り組みを通じて、お客様により一層安心してご利用いただけるサービスの向上を目指してまいります。



特定保税承認者承認通知書



アステラス富山株式会社 富山工場で主要機器据付工事を完工 チャレンジ精神と宇徳のパワーを発揮して新規分野への次なる展開を目指す

当社は、アステラス富山株式会社（山之内製薬株式会社と藤沢薬品工業株式会社の合併により発足した国内製薬メーカー大手・アステラス製薬株式会社のグループ会社）が開発用原薬の製造能力の大幅な増強を目的とし、同社富山工場内に新設する、発酵技術研究棟の主要機器据付工事を、株式会社日立プラントテクノロジーより受注し、本年1月に着工、4月末に無事完工しました。

同社は、免疫抑制剤「プログラフ」やアトピー性皮膚炎治療剤「プロトピック」などの原薬（薬を構成する主成分）と製剤の製造を行っており、今回新設した発酵技術研究棟は、日本・米国・欧州3極における治験薬（政府機関から製造承認を得るための臨床試験に用いられる薬剤）の製造管理に対応した設備で、複数の開発用原薬の製造を同時に行う機能を備えています。

当社は、大寒波と積雪の影響を受けながらも、建屋の建設中に650 t 大型クレーンを用いて行った大型タンクの搬入工事（第1期工事）、建屋が完成した後に引込み工事（第2期工事）において、合計204基（総重量：500 t）の機器据付工事を無事故・無災害で完工し、お客様より高い評価を得ることができました。

当社は、世の中の景気変動の影響を受けにくいとされる医薬業界においても、今回の実績と新規分野へのチャレンジ精神を発揮し、次なるビジネスチャンスへの展開を目指してまいります。



細心の注意を払いながらの大型タンクの搬入作業



自動車専用船荷役の「1年間以上にわたる無事故作業の継続」に感謝状 「安全・安心」の作業徹底でお客様の満足度を追求

当社は本年3月17日、自動車専用船の完成車（自動車）荷役において、昨年末まで1年間以上にわたり無事故を継続した功績で、株式会社商船三井より感謝状を受けました。元日を除く364日24時間、風雨激しい悪天候や夜霧も凍てつく真冬の荷役、艙内温度50℃・湿度90%以上の真夏日等々、苛酷な環境においても、常に安全・確実な作業を提供し続けてきた結果が、今回の表彰となりました。

自動車専用船は、戦後の自動車工業の発展に伴い、それまで在来型貨物船に1台1台本船ギア（揚貨装置）で荷役していた自動車を、大量に運ぶ目的で生まれた専用船です。



株式会社商船三井の自動車専用船への積み込み作業風景

船体の内部は、まさに高層駐車場そのもので、船側・船尾のランプウェイ（斜路）から1台ずつ専門のドライバーが運転して積み込みます。通常、ドライバー10名に車を固定するラッシャー8名などを加えた20名前後のチームを1単位として行われ、その積載台数は1日数百台から2千台以上になることもあり、それらを“前後30cm、左右10cm”間隔で正確に、しかも秒単位の早技で次々に積付けていくそのテクニックと集中力は、まさにプロの技といえます。

当社は創業以来、時代の移り変わりとともに変遷を続けてきた海上貨物の輸送形態の変化にすばやく適応することにより、荷役の機械化と情報化に対応すると共に、人材の育成と技術の伝承にも努め、作業の効率化とサービスの向上を進めてきました。

今後も「宇徳に任せたら安心」というお客様からの信用と信頼を第一義とし、さらなる「安全作業」とサービスの向上に努め、お客様に必要とされるUTOOCを目指してまいります。



自動車専用船の船尾にあるランプウェイから専門のドライバーが1台1台運転して積み込む

1台でも多く積むために、自動車専用船内に左右10cmの間隔で積み込まれた完成車。ここにも宇徳の技術と創意工夫が



横浜港支店 船舶チームに贈られた感謝状





世界最大規模の SHELL 社石油化学コンビナートの中核を担う、大型エチレンプラントの心臓部を 2010 年 4 月、無事故で完工

本年 4 月、世界最大規模を誇る SHELL 社石油化学コンビナートの中核を担う、年産能力 80 万トンの大型「エチレンプラント」がシンガポールに完成しました。

当社グループの UTOC ENGINEERING PTE LTD. (シンガポール：以下、「UTOC エンジ」) は、SHELL 社より当エチレンプラントの「心臓部」にあたる「分解炉」10 基の組立と、その内部および周辺配管を含む大型配管工事のほか、隣接する「ブタジエンプラント」の鉄骨組立と機器据付工事を直接受注し、2007 年末の着工以来、無事故で完工しました。

UTOC エンジは、ピーク時には 1 日約 800 人が従事した当プロジェクトにおいて、積極的なローカライゼーション (現地化・地域化) を推し進めるとともに、万全な施工管理体制を構築し、安全管理と施工品質の充実に努めました。



心臓部の「分解炉」10 基の建設工事風景

その結果、UTOC エンジは、30 社以上の主要業者が参加した当プロジェクトにおいて、月間最優秀会社に 3 度 (業者全体で 2 位)、最優秀品質保証会社に 4 度 (同 1 位) も選ばれるなど、SHELL 社より極めて高い評価を得ることができました。

UTOC エンジが組立工事を施工した、世界最大の観覧車「Singapore Flyer (2008 年 3 月開業)」と同じ地に、UTOC グループの技術力の結集で、世界最大規模の石油化学コンビナートが完成しました。



SHELL 社から贈られたトロフィーと表彰盾

宇徳ロジスティクスが「配車・運行管理システム」他を導入 物流システムの最適化の創造と環境保全に注力

宇徳ロジスティクス株式会社 (以下、「宇徳ロジ」) は、京浜港における配車の一元化を目指し、本年 6 月より GPS と車載端末 (インターネット携帯 + プリンター) を活用した「配車・運行管理システム」を導入しました。

宇徳ロジは、現在トラック、シャーシ (台車) 合わせて約 530 両を保有し、グループ各社との連携による合理的な国際海上コンテナ輸送のシステムを構築していますが、港頭地区ではゲートの混雑や道路渋滞が慢性化しており、安全運行と配車の効率化が同事業の最大の課題になっていました。同システムの導入により、パソコンで車輛の位置と作業の進捗状況をリアルタイムに把握することができるようになるため、シャーシの切り替えで車庫までの無駄な走行を低減し、最適な配車と管制作業の簡素化を図ることができます。また、車輛 (貨物) の迅速かつ正確な運行情報の提供により顧客満足度の向上が図れるとともに、環境負荷の低減にも繋がります。

宇徳ロジでは、さらに「安全性優良事業所認定 (G マーク)」を取得している、横浜・東京・茨城の 3 営業所 (開設から 3 年未満の東北・北海道支店も順次取得予定) を対象に、本年 4 月より「IT 点呼 (Web カメラを用いた遠隔体面点呼)」も導入し、これらの IT ツールの活用により、さらなる業務の効率化とサービスの向上に努めています。

宇徳ロジは、さらなるサービスの充実と向上を図るべく、本年 5 月、本社社屋と自動車整備工場の新設工事に着工しました。



本社社屋 (手前) と自動車整備工場 完成イメージ

株式の状況 (2010 年 3 月 31 日現在)

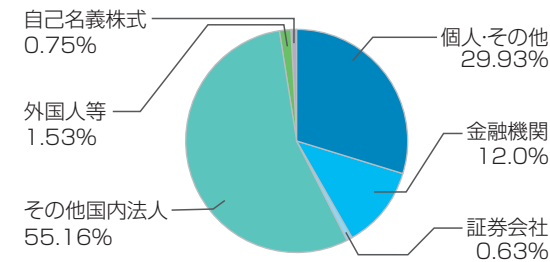
発行可能株式総数 96,000,000 株
発行済株式総数 29,106,000 株
議決権を有する株式数 28,876,900 株
株主数 5,155 名

大株主の状況 (上位 10 位)

	持株数 (千株)	出資比率 (%)
株式会社商船三井	14,463	50.1
三井物産株式会社	884	3.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTB エクイティインベストメンツ株式会社信託口)	574	2.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	389	1.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	340	1.2
三井住友海上火災保険株式会社	332	1.2
株式会社横浜銀行	314	1.1
三井生命保険株式会社	287	1.0
株式会社三井住友銀行	273	0.9
国際コンテナターミナル株式会社	200	0.7

(注)・当社は、自己株式 217,778 株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
・出資比率は自己株式を控除して計算しております。
・日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社、日本マスタートラスト信託銀行株式会社の持株数には、信託業務に係る株式数を含んで表示しております。

所有者別の状況



会社の概況 (2010 年 6 月 29 日現在)

商号 株式会社宇徳
本社所在地 神奈川県横浜市中区弁天通六丁目 85 番地
創業 1890 年 (明治 23 年) 3 月 1 日
設立 1915 年 (大正 4 年) 12 月 8 日
資本金 14 億 5,530 万円
従業員数 1,016 名 (連結)
主要な事業内容 港湾運送事業、海上運送事業、一般貨物自動車運送事業、貨物利用運送事業、倉庫業、通関業、建設業、不動産業

役員
代表取締役社長 外園 賢治
代表取締役副社長 新田 耕一
常務取締役 嶋津 俊信
常務取締役 高谷 昌宏
常務取締役 西村 時雄
取締役 滋野 晃
取締役 竹内 雄二
取締役 榎藤 修一
取締役 古川 貴雄
*1 取締役 池田 潤一郎
*2 常勤監査役 牟礼 英明
常勤監査役 佐藤 昇
*2 監査役 溝下 和正

(注) *1 は、社外取締役であります。
*2 は、社外監査役であります。

宇徳グループ・連結子会社 13 社
宇徳ロジスティクス(株) 千葉宇徳(株)
宇徳港運(株) 九州宇徳(株) 北海宇徳(株)
宇徳プラントサービス(株)
宇徳不動産(株) (株)宇徳ビジネスサポート
宇徳流通サービス(株)
UTOC AMERICA, INC.
UTOC ENGINEERING PTE LTD.
UTOC (THAILAND) CO., LTD.
UTOC ENGINEERING (MALAYSIA) SDN. BHD.
・関連会社 4 社 (うち持分法適用会社 2 社)